

バイリンガル絵本

いのちのぼとん

都内の小中学校に寄贈

「防災一人語り」推進グループ(加藤雅代表)は「救命」を題材にしたバイリンガル絵本「LIFE'S RELAY BATON」5のちのぼとん」(B5版・32ページ・非売品)を都内の小中高校などに寄贈した。

「防災一人語り」推進グループ(加藤雅代表)は「救命」を題材にしたバイリンガル絵本「LIFE'S RELAY BATON」5のちのぼとん」(B5版・32ページ・非売品)を都内の小中高校などに寄贈した。読者の対象は、小学校高学年の児童から中学生・高校生で、昨年9月10日(沙織さんの誕生日)に初版を発行、2回増刷し、これまでに約千部を福井など8県の県立学校(高等学校・特別支援学校)や、30区市町村の小中学校、図書館などに、また都内では島しょ部の大島町、八丈町、三宅村、御蔵島村、青ヶ島村、利島、神津島の各小中学校、都立高校は島しょ部4校と多摩地域の5校に寄贈した。バイリンガル絵本の寄贈を受けた教育委員会担当者は「命の大切さを考えるのみならず、英語学習という観点からも学べるので多くの生徒に読んでもらいたい」「メッセージ性がありすてきなイラストや中学生が読みやすい英文である」とのメッセージが寄せられた。

加藤代表は、「当初、バイリンガル絵本の寄贈は2020年度の単年度事業と考えていたが、21年度以降も都内を含む全国の学校、図書館等への寄贈を継続する予定」と話す。また、2000年に発生した三宅島雄山の噴火災害を題材にした「防災一人語り」「迷子推し」「三宅島大噴火」を三宅村役場や村民の協力により制作し、2013年に三宅島郷土資料館、2016年に三宅小学校で上演。2011年には防災一人語りの紹介と脚本執筆の取材を兼ね、消防団員を主人公にした防災一人語り「写真」を同村で上演した。

「防災一人語り」推進グループはボランティア団体で、全国各地で火災や救急、地震、噴火災害など、さまざまな防災防災をテーマにした作品(脚本)を1人の演技者が朗読・演技する無料の公演活動を行っている。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、昨年5月の高知公演と6月の岩手公演の中止など、一年以上前から準備してきた5会場・10作品(うち英語版3作品)の上演を取りやめ、急ぎよ新規事業としてバイリンガル絵本を制作し、寄贈の活動を開始することとした。

また、絵本・童話シリーズの3作品は「防災一人語り」推進グループのホームページ「文化と防災の合体」<https://www.bousaifonikatarari.jp/>や自由に関覧(PDF画像)できる。

絵本「いのちのぼとん」の文は首森奏さん(おともり・かなでペンネーム。東久留米市)、絵は佐々木曜さん(ささき・よう。亡くなった沙織さんと同年生まれ。川崎市)が担当。バイリンガル絵本の英訳は、米国出身の角田貴美枝さん(かくだ・きみえ。米国の大学を卒業。国立福井大学に留学。福井市)が担当した。

LIFE'S RELAY BATON

いのちのぼとん
Text: Kanako Gimon Illustrations: Yu Suzuki
24 8249 4507 4 222 23



Cover Illustration: Dachi Kawazaki
0414 0833 205 Translation: Ritsie Kusuda
0412 042 242

Solo Story: Telling for Disaster Prevention on Children's Picture Book Series Part 2

「救命」が題材のバイリンガル絵本

「救命」が題材のバイリンガル絵本「いのちのぼとん」の文は首森奏さん(おともり・かなでペンネーム。東久留米市)、絵は佐々木曜さん(ささき・よう。亡くなった沙織さんと同年生まれ。川崎市)が担当。バイリンガル絵本の英訳は、米国出身の角田貴美枝さん(かくだ・きみえ。米国の大学を卒業。国立福井大学に留学。福井市)が担当した。

また、2000年に発生した三宅島雄山の噴火災害を題材にした「防災一人語り」「迷子推し」「三宅島大噴火」を三宅村役場や村民の協力により制作し、2013年に三宅島郷土資料館、2016年に三宅小学校で上演。2011年には防災一人語りの紹介と脚本執筆の取材を兼ね、消防団員を主人公にした防災一人語り「写真」を同村で上演した。